

5年2組

わたしたちの手でつくりだそう 草木染の世界 ～自然のもので理想の色を～



暑い夏を生き抜いた藍

今年の夏はあまり雨が降らず、植物の生育にはつらい年でした。グランドの草も枯れてしまっている状況でした。そんな中でも、少し葉が枯れたときもありましたが、藍は生き抜いてくれました。一緒に始めたバケツ稻と共に、青々とした葉をつけてくれました。Aさんは「枯れていた藍が復活してきたよ!」とうれしそうにしていました。藍は強い植物で、先端を切っても横から枝が伸びてきます。また、水につけておくと根っこも生えできます。夏休みの間にプランターに生えてきた雑草を抜いたり、葉っぱの様子を観察したりしました。この夏の暑さから、藍の強さを感じることができました。



今までにない経験をしたいんだ

夏の暑さに耐え、何度も復活してきた藍を使う時がやってきました。しかし採れた量が多くありません。藍は秋口までは育つのですが、これからどれだけ育つか予想ができませんでした。これで終わりの可能性もありました。生葉を使い緑色に布を染めるのか、染料にして藍色を出すのか、とても迷いました。国語の話し合いの単元の学習も取り入れ、立場を明らかにして話し合いをしました。「緑色が出したい」「また藍色をつくりたい」と色に着目して話し合いをしていたのですが、Bさんが「今まででは煮詰めて染料を作ってきたけど、ちがう作り方で染めて、今までにない経験をしたいんだ」という意見を出しました。この意見が多く人の心をつかみ「まず生の葉で染めて、量がどれかわからないけれど、また生えてきた葉を煮詰めて染料にしよう」と次の活動が決まっていきました。

一筋縄ではいかないな 藍の生葉染

収穫した藍の葉をミキサーやハンドミキサーで細かくし、煮詰めずに生の葉で染色をしてみました。今回は事前に豆乳に付け込んだ布を使いました。葉っぱの質にこだわって葉を厳選していく子、休み時間の間ずっとハンドミキサーで準備をする子など、いい色を出したいという思いが感じられました。いざ染めてみるとうまく染まらないグループもありました。はじめはなんでなのか分からなかったけれど、考えてみると水の量が多かったのかもしれないという結論になりました。一筋縄ではいかないことがよくわかりました。また今回の染色では媒染にオキシドールを使いました。オキシドールが消毒として使われていることをはじめて知った子もいました。オキシドールにつけてみると…緑色に染まっていた布が青みがかつてきました。Cさんは「この緑色いいの!」と言い、淡い緑色を保つためにあえて媒染をしない選択をしました。自分の好みの色を追究しようとする姿でした。



自然の植物で染料をつくってみたい

秋になり、紅葉が始まりました。これから試作していく色を「どんな色をつくりたいの?」という問い合わせから考えてみました。Dさんの「オレンジ色が出したいな」という意見から、みかんの皮を使ってみることになりました。なんと、ちょうどその日に給食でみかんが出ました。「おれ、給食室に行ってもらってくる!」と元気よく教室を出ていったEさんがいました。そのおかげで全校からみかんの皮が集まり、準備が整いました。また、桜の葉や枝を集めることにしました。「紅葉した桜の葉っぱで染料はできるのかな」という問い合わせもありました。今回集まったのは「桜の葉」「紅葉した桜の葉」「桜の枝」「敷地内に自生していた青いトマト」でした。「藍の花ではできないのかな」と問い合わせを持ち、挑戦した子たちもいました。他には、コーヒーや玉ねぎの皮でも染料をつくってみました。

染料の作り方は前期に学んできたので、今回は自分たちだけでもつくることができました。今回は実験として10分ごとにどれだけ色が出るかも記録してみました。染液をつくっていると、とてもいい香りを放つ鍋がありました。それは桜の葉っぱを煮詰めた鍋でした。桜の葉っぱを煮込んだことがないので、こんなに香るものなのかな…という発見もありました。コーヒー、玉ねぎ、みかんの皮、マリーゴールドはいい色がでました。桜の葉っぱは香りはいいものの、うまく色が出ませんでした。でも、まだ失敗とは限りません。媒染をすれば色が変わるかもしれないからです。次の時間は、図工の水彩画で、染料を使って描いてみる時間です。はたして和紙に色はつくのでしょうか。

たくさん煮ると色が濃くなる。さくらもちのにおいがした。煮る時間によって色だけじゃなくて香りも変わることがわかった。実験みたいで楽しかった。つくった染液でいろんなものを染めたいな。

マリーゴールドはけっこう独特なにおいがして、ちょっと好きなにおいではなかった。色はオレンジ色にならなくてちょっと残念だったけど、ミョウバンを入れればオレンジっぽくなると思うので、それもどんな色が出るか気になる。自分が好みの色が出ればいいなと思う。できたマリーゴールドの液を3つか、4つにわけて、いろんな液を入れていろんな色を出してみたい。

藍の葉が青だから藍の花は初めてやってきれいな色になると思っていたけど、意外とコーヒーみたいになってびっくりした。葉と花は全然ちがうんだってわかった。



そうだ。みかんでみかんを描こう

今回は図工とコラボレーションして水彩画に染液をつかうことに挑戦しました。まず、水のしみこみ具合を画用紙と和紙で試してみました。うまく色がつくものもあれば、つかないものもあり、染物の道の難しさを実感しました。水の色が、そのまま紙や布に出るわけではないのですね。染液だけではうまくいかなかったので媒染に使うミョウバンとオキシドールも入れてみました。すると、色が変わるものでできました。「そうだ。みかんでみかんを描こう」と考えたFさんがいました。みかんからつくった染液で、みかんを描くというのは、素敵な発想ですね。

今回うまくいかったものは次回、水の量などを調整して再挑戦です。次は何で染液をつくり、何を染めていくか。次への期待が膨らむ活動となりました。

